少子高齢化社会のど真ん中で
わがまち再生ビジネスの新たな展開を目指す
空き家リフォーム＆高齢者生活サポート

確かな足跡を残した地道な地域活動
- ◆十五年の実績　三百六十五日の清掃活動
- ◆三十年の発行　地域情報紙フォーラム
- ◆十二年の歴史　親子農業体験塾の展開
- ◆熟年層の学び　「人生講座」「生涯学習」

美しい町を目指して

マルコシが企業活動の理念としてトップに掲げたのが「美しいまち」。自分たちが働くまち、お客さまが暮らすまちは美しくなればならないと頑固一徹を通してきました。「唱道の人多けれど、行道の人少なし」と道元禅師も嘆かれていましたが、言行一致の企業を目指して全社員が一丸となって清掃活動を展開してきました。その活動は地域の公園や通学路にまで及んでいます。これからも続けて参ります。

宣伝のない企業の地域情報紙

隔月で地域情報紙「フォーラム」を発行していますが、住まいと暮らしの新聞として地域の皆様からご好評をいただいています。アマチュアの手作り新聞として拙いところはありますが、ビジネスを超えた情報紙として高い評価をいただいています。現在では地域の周辺を含めて三万五千部をポストインしています。

親子が共に学び合う親子農業体験塾

①子どもの教育、②高齢者の生きがい、③過疎地の活性化、④都市と農村の交流を目指してスタートし、十二年目に入りました。時間持ち、知恵持ち、金持ちの志ある高齢者に助けられながら活動しています。今年は十五家族、二十二名の塾生と自然体験、農業体験をベースに自然の恩恵を享受しています。

熟年層の積極的学習ステージ

平成二十一年、知的好奇心の旺盛な熟年世代の要望にお応えして「人生講座」「生涯学習」「小粋なギャラリー」の展開をしています。講座は月に十講座、参加者は一年に延べ千五百人を超えました。学び好きの元気な高齢者が集う新しいコミュニティが生まれました。テーマは「ニッポンを学ぶ」。

これら四つの活動は一私企業の枠を超えた社会貢献活動（CSR）として地域の皆様から支持されています。

まち再生事業部スタート

空き家リフォームで町の活性化を
困ったとき高齢者の暮らしをサポートしてほしい
独り暮らしの見守り・定期巡回を
住まいと暮らしの「安全」&「安心」の支援

空き家が増えてきた（まち再生フォーラム）

かつては西日本最大の住宅団地と称された時代もありましたが、ご多分に漏れず少子高齢化の波には逆らえず団地のあちこちに空き家が目立ち始めました。昼間はまだいいのですが、灯りの点かない家は一層淋しさを感じるものです。我が社がこの町で仕事をさせていただいてもうすぐ三十年になります。リフォーム済みで空き家になった建物を見るたびに心が痛みます。お客さまから「何とかする責任があるのではないか」と叱られました。心に掛けてはいたのですが、準備が必要です。昨年、江原文男社員が「宅地建物取引主任者」の試験に合格。今年の四月、不動産業の登録も済ませました。やっとお客様との約束が果たせます。これから少しずつお役に立たせていただきます。

高齢者夫婦の暮らしをサポート（ほっと&スマイル・PartⅠ）

高齢化社会への移行にともない高齢者のみの家庭が増えてきました。ご夫妻とも健康なペアは心配ありませんが、どちらかが不自由になると老々介護家族になります。子どもさんが近くで暮らしておられれば何とかなります。しかし、介護認定などややこしい問題もあり、途方に暮れておられるご夫婦も少なくありません。「何とかならないか」というお得意様のSOSも入ってきます。暮らしをサポートする仕組みを検討しています。出来るだけお役に立てるメニューを作ります。いずれ我が行く道、なおざりにはできません。顔馴染みのお客様、とりあえずご相談ください。お役に立てるよう心を尽くします。我が家の両親も今のところ健康ですが、七十八歳と七十七歳のペアです。他人ごとではありません。

独り暮らしを積極的に支える（ほっと&スマイル・PartⅡ）

講座で学ばれる熟年者の七割は女性です。なかには八十九歳でなお向学心の旺盛な方もおられます。送迎などの手助けはしておりますが、積極的にプライベートに踏み込んではいません。地域には民生委員なども活躍されており、私たちが出る幕はないかも知れません。ご要望があれば積極的に支援をして参ります。どんなことが出来るか、現在メニュー作りも進行しています。行政の手が届かないところ、家族の助けが間に合わないとき、困りごとを引き受ける積もりで準備をします。ただいま仮メニューで地域の実態を調査しています。高齢者が安心して暮らせる町、それが私たちの願いです。それにしても講座にお超しになる方は支援など必要がないほどお元気です。

住まいの「安心」と暮らしの「安全」を（ほっと&セーフティ）

最近は家庭内の事故が増えています。転ばぬ先の杖といいますが、怪我をしないうちに安全を確保しておくのがもっとも懸命です。どんな小さなことでも相談に乗ってくれ、しかも気軽に動いてくれる人が決まっていればこの上はありません。最近は高齢者の弱みに付け込むリフォーム詐欺も横行しています。用心に超したことはありません。三十年で延べ一万五千件もの工事をさせていただいております。ご恩返しが出来るときが来たように思います。

出来ることも出来ないこともあると思いますが、ともかく何でも相談してください。必ず道が開けます。

少子高齢化社会のど真ん中で 幸せに生きるための心得⑫

多少の無理は挑んでみる
毎日続けられる行を持つ

木原 伸雄

懲りずに中国山脈横断の百キロウォークに挑戦

毎年六月第二週は「中国山脈横断百キロウォーク」の大会が開かれます。今年は年初に肺炎で十一日も入院したこともあり、家人はいい加減にしてはと、忠告してくれます。トレーニングも十分ではなく半ば諦めていましたが、来年は数えの八十歳になります。一度休むと再挑戦は精神的にも無理だと思います。多少無理は承知でも来年のことを考えれば、休まない方がベストと考えエントリーをしました。

今年が五回目の挑戦になりますが、三百五十名の参加者の中で名誉な最高齢です。一回目の18㎞を皮切りに、38㎞、50㎞、73㎞と毎年ウォーキングの距離を伸ばしてきました。昨年は万全の準備を調え、百キロの完歩に挑戦しましたが残念ながら志半ばにしてリタイア。諦めればいいのですが、一旦決めたことですから無理は承知でチャレンジします。

正月の肺炎で「もう無理はしない」と諦めたものの喉元過ぎれば熱さを忘れるとか。「死んでもしらんよ」と叱られながら、「いい歳をして」と笑われながら、虚仮の一念で行けるところまで行きます。もしも息絶え絶えになったら、恥も外聞もなくリタイアします。身体のトレーニングは追っつきませんが、心のトレーニングはしっかりやります。傘寿目前ですが七十歳代ですから多少の無理は許して貰います。どうぞご声援ください。

毎日ゴミ拾い出来る幸せ

朝起きたとき「今日はなにをしようか」と考える日々は不幸です。幸せとはなすべき役割があるかどうかで決まります。目覚めたらその役割を果たすために身体が意志とは関係なく動くようであれば、これ以上の幸せはありません。当然のことながらその役割を果たすために、食事にも日々の生活リズムにも細心の注意を払います。

私には幸いに二十年も続けている掃除があります。後期高齢者になったとき「三百六十五日、これ清掃」と決めました。三年間は目標を達しましたが、今年は肺炎で入院したため残念ながら一から再スタートです。

特に頑張っているわけではありません。目覚まし時計の世話にならず体内時計で目が覚めたら、意志とは関係なく身体が動いてくれます。だから続くのです。

一週間のうち四日は掃除とゴミ拾いの組合せ、通学路の清掃が一回、公園のトイレ磨きが一回、日曜祭日は会社周辺の歩道清掃と花壇の整備を行ないます。一週間のパターンを五十二週繰り返すと三百六十五日になります。こんな幸せなことはありません。

その行いがもしも世のため人のためになるとしたら、天は一日でも長く健康長寿を与えてくれます。やがて「ピンピンコロリ」の資格が与えられ、他人様に迷惑を掛けないで旅立つことが出来ます。まだウン十年も先のことです。

リフォームの『もっと』を新しいカタチに

パナソニックキッチンPaPaPaシンクは
2014年度グッドデザイン賞受賞しました。